

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 足利市
対象品目 いちご

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県のいちご生産現場では、除草や保温効果を目的に、畝にプラスチックマルチフィルム（以下マルチ）を使用することが一般的である。栽培終了後には場内からマルチの撤去及び廃棄を行っているが、マルチの撤去作業は生産者の労力負担が大きいことに加え、廃棄物の処分の際にCO2が発生するため、省力的で環境に配慮した栽培体系の転換が求められている。

近年、使用後の土壌すき込みが可能なため、廃棄物の発生が無く、撤去作業を必要としない生分解性マルチの導入が各品目で報告されている。いちご栽培において生分解性マルチを導入することにより、農業用プラスチックの廃棄量削減や生産者の労力の負担軽減を目指す。

現在の栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	9 ▶	9	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	プラスチックマルチの使用	▶ 生分解性マルチの使用	・プラスチックマルチの使用量削減 ・作業時間低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチックマルチの使用量（kg/10a）	59.2 ▶	0	マニュアルの導入事例より算出
省力	マルチの片付け等作業時間（％）	100 ▶	70	マニュアルの導入事例より算出

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・講習会や現地検討会等の開催により、技術の周知、推進を図る
- ・導入生産者に対し、関係機関と連携し技術指導を行う

関係者の役割

関係者名	安足農業振興事務所	JA足利いちご部会	マルチメーカー	
役割	技術指導、普及推進	技術導入、検討	技術指導、情報提供	

その他